

ありあけうみ通信

「有明海魚介類漁の再生を目指して」



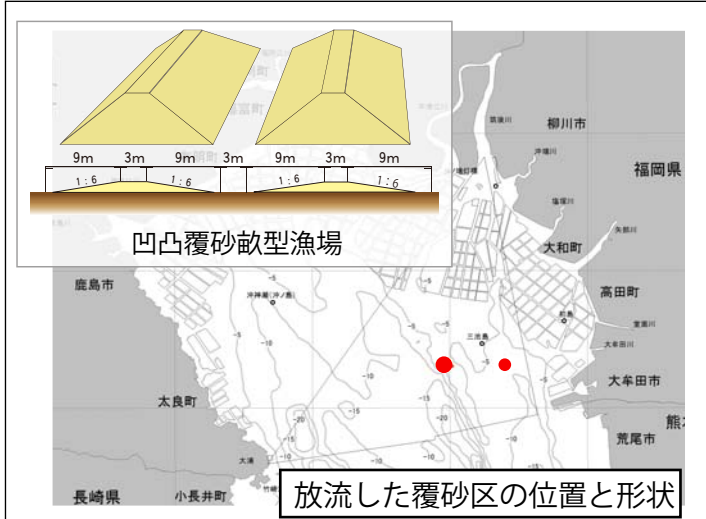
タイラギ種苗の放流

平成二十六年九月二十六日から二十九日に、人工的に生産されたタイラギ種苗(稚貝)の放流作業を実施しました。

放流場所は、全国水産技術者協会等のグループが施工した凹凸覆砂畝型漁場です。

放流したタイラギ種苗は、独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所が福岡県海域で採捕された有明海産のリシケタイラギを母貝として人工的に生産したものです。

放流した人工種苗と天然稚貝の生残率や成長率を比較し、人工種苗の有効性を検討します。有効性が確認された場合には、人工種苗の放流によるタイラギ資源の増加、母貝まで成長させることによる再生産への寄与などが期待されます。将来的には、有明海のたいらぎ潜水器漁再生の一助になるように努力したいと考えています。



放流した覆砂区の位置と形状



放流したタイラギ稚貝

※平成26年度「一枚貝資源緊急増殖対策事業」(水産庁委託事業)

第5号
(2014.10.27)



代表機関 一般社団法人 全国水産技術者協会
Tel. 03-6459-1911 Fax. 03-6459-1912
いであ株式会社
株式会社オオスミ
株式会社シャトー海洋調査
株式会社日本海洋生物研究所
みらい建設工業株式会社

放流作業は西海区水産研究所の指導の下に行いました。まず、タイラギ種苗を現地の海水に馴致させる作業を行いました。約五千個体から一万個体のタイラギ種苗を海水で洗浄した砂利(粒径約一ミリメートル)を底に敷き詰めた垂下式カゴに収容し、三池港内に垂下しました。砂利とともに収容したのは、タイラギ種苗が足糸で砂利を絡めて、流されにくくするためです(左下写真参照)。

三池港内で二日間馴致した後、タイラギ種苗を入れた垂下式カゴを潜水士が凹凸覆砂畝型漁場の法面部まで運び、一平方メートルあたり約二百個体となるように、合計約五万個体のタイラギ種苗を放流しました。

今後、十一月と二月に凹凸覆砂畝型漁場でタイラギの生息密度や成長率などを調査し、放流後のタイラギ種苗の状況を追跡します。

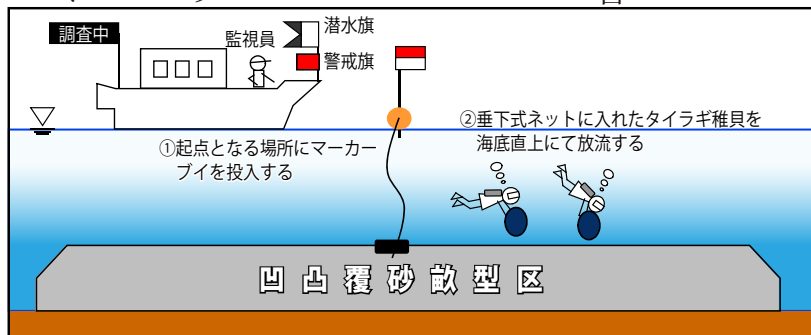
今後とも、皆様の暖かいご支援のほど、よろしくお願い致します。



馴致作業の様子



放流作業の様子



放流作業イメージ

足糸に砂利を絡ませたタイラギ種苗(馴致作業後)